

祝 サッカー部女子 念願の公式戦初勝利！

1月22日(日)、兵庫県高等学校サッカー新人大会女子部1回戦が行われ、本校サッカー部は三田西陵高校に3-1で勝利、念願の公式戦初勝利を果しました。三田西陵高校は昨年5月14日の県総体で1点リードしながらも逆転負けを喫した因縁の相手です。今回は前半1点を先制されながらも、勝利への執念を燃やし攻め続けます。そして後半20分過ぎ、2年生のキムヤプテンYさんがフリーキックから直接ゴールを決め、2年生のSさんがシュートを決めて3点目を、そして試合終了のホイッスル。勝利の瞬間みんな歓喜して躍り上がりました。応援に来ていた保護者や先輩も泣いて喜んでいました。

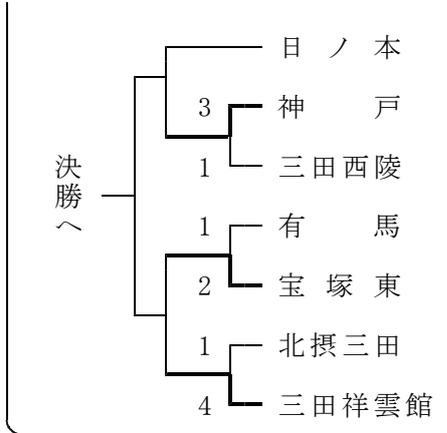
そこから押せ押せ、再びYさんが一気にドリブルで攻めゴールキーパーと対峙しながらもシュートを決めて2点目をゲット。さらには3人でパスを回しながら運んでいき、2年生のSさんがシュートを決めて3点目を、そして試合終了のホイッスル。勝利の瞬間みんな歓喜して躍り上がりました。応援に来ていた保護者や先輩も泣いて喜んでいました。

振り返るとサッカー部の女子チームができたのが平成26年度。68回生の生徒2人(うち1人はクラブチーム所属)と69回生9人で結成しました。初試合は27年1月の新人戦がでした。人数が足りないながらも10人で出場、明石南と淡路の合同チームと対戦しましたが1-4で敗退しました。

平成27年度になり70回生が入部、部員は増えましたがなかなか公式戦の1勝が遠く、県総体0-1明石南、選手権0-5県西宮、新人戦0-3有馬と、この年は1点すら取ることができませんでした。

そして今年度、5月の県総体は三田西陵に1-2で敗退し、69回生が引退しました。次いで70回生の代の新チームになりましたが、9月の選手権大会では六甲アイランド高校に0-10と大敗を喫しました。でもこの悔しさをバネに部員は奮起、そして今回、公式戦7戦目にして見事初勝利を勝ち取ることができました。

次は1月28日(土)、日ノ本学園高校と対戦します。全国常連の強豪校ですが胸を借りるつもりで頑張っておきたいと思っております。



祝 M校長先生が「奥の細道」踏破！ 紀行文を冊子に



〈紀行文の冊子〉

本校の前校長のM先生が念願の「奥の細道」を踏破し、この度、紀行文をまとめた冊子が完成しました。

一昨年の5月16日(旧暦3月27日)、芭蕉が出発した日と同じ日に東京の北千住を出発、「奥の細道」の行程約2000kmを計117日かけて踏破し、昨年9月10日、無事に大垣に到着しました。

この度完成した冊子は、その間、旅先で詠んだ俳句や感じたことを綴っておられたものをまとめたものです。本校にも寄贈して下さいましたのでご覧下さい。

また、1月25日(水)の神戸新聞朝刊にも記事が掲載されました。神戸新聞によりますと、東日本大震災の被災地支援で訪れた宮城県で、芭蕉の句碑を見つけたことがきっかけ。句碑を見つけたのは宿泊していた宮城県登米市のホテル付近。津波で破壊された町や被災者の疲弊に胸を痛めていた中、「芭蕉がここを歩いたのか」と深い感慨を覚え、「自分の足で東北を歩きたい」と芭蕉の足跡をたどり始めたとのこと。

全行程を20区間に区切って挑戦。3~9日間の滞在中に1日約15キロずつ進み、1区間を歩き切るといったん神戸へ。夏と冬を除き、数日休むとすぐ旅に戻りました。

持ち物はコンパスや住宅地図のコピーなど。標識も目印もない山を歩くことも多く、山形県の舟形から新庄へ向かう山道では一度、方向を完全に見失い、どうにか尾根に出て、タブレット端末でGPSで現在地を割り出したといいます。

そして昨年9月、奥の細道の終着点である岐阜県大垣市に到着。出迎えてくれた友人の姿を見て、安心したとのこと。

「自分は何も知らないことが分かった。」と振り返ります。「インターネットで調べたが、現地で見ると風景、鹿の鳴き声、食べ物の味、そして被災地の現状は、想像とは全く別物だった。実際に歩いたことに意味がある。」と若い人たちにメッセージを送り「次はどこを歩こうか」と早速考えているとのこと。